

甘くみないで甘麦大棗湯

池野 一秀

長野松代総合病院小児科部長（長野市）

●甘麦大棗湯はおいしい

前回、こどもに漢方薬を飲ませるコツと、小建中湯しょうけんちゅうとうを中心とした膠飴こういを含む甘い処方をご紹介します。こどもの好む甘みをもつ生薬として、膠飴のほかにも甘草かんぞうがあげられます。甘草は、生薬だけでなくお菓子や醤油の甘味付けとしても頻用されています。その甘草を含む甘い漢方薬の代表が「甘麦大棗湯かんぼくたいそうとう」です。甘麦大棗湯は名前の通り、甘草・小麦しょうぼうく・大棗から構成されています。甘草の他に小麦はそのまま小麦粉ですから、でんぷん質が分解されれば麦芽糖になります。大棗は、棗の実のドライフルーツです。このように、すべて甘みをもった食品から構成されているのです。ためしに甘麦大棗湯に卵と牛乳、ベーキングパウダーを加えてオーブンで焼いたら、さぞおいしいクッキーができるでしょう。事実、漢方薬エキス顆粒をクッキー生地こねに混ぜて焼き、こどもに与えるという方法を実践しているお母さんもいらっしゃいます。こどもを思うお母さんならではの、すばらしいアイデアだと思いませんか？

●憤怒けいれんに著効

さて、このおいしい甘麦大棗湯ですが、どのような患者さんに使えるのでしょうか。たった3つの生薬から構成されたこの処方、実に応用範囲が広いのです。甘麦大棗湯の添付文書中の「適応・効能又は効果」には、「夜泣き、ひきつけ」とあり、使用目標には「比較的

体力の低下した人で、精神興奮がはなはだしく、不安、不眠、ひきつけなどのある場合に用いる。腹直筋の攣急れんきつしている場合」と書いてあります。わかりやすくいうと精神的緊張、興奮や、腹直筋をはじめとする筋肉のけいれんを和らげる働きがあります。

もちろん、ひきつけといってもこどもの熱性けいれんやてんかんの全般発作では、西洋医学的な抗けいれん薬が第一選択であることに異論はありません。しかし、けいれんの中でも抗けいれん薬が使いにくい病態として憤怒けいれんふんぬがあります。これは、新生児や乳児が激しく啼泣しているうちに呼吸が停止し、チアノーゼや全身けいれんをきたす病態です。突然のひきつけに親が驚いて、救急搬送になることもあります。実際、1歳過ぎまで発作を繰り返し、救急車で何回も搬送された患児がいました。脳波検査では大きな異常は認められず、てんかん発作は否定的でした。この症例には、甘麦大棗湯を1日1回、3分の1包投与しました。その1カ月後には啼泣時たまにチアノーゼはみられましたが、呼吸停止やけいれんはなくなりました。

●症例——突発性発疹解熱時の啼泣

一方、大多数の乳幼児が罹患する疾患に突発性発疹症があります。あまり知られていないのですが、突発性発疹症では多くの患児は不機嫌になり、わけもなく泣き叫ぶことがあります。これは、発熱期より解熱期に多いといわれています。木村正彦先生は、突発性発疹症の115例について、解熱後に半数近く（48例、42%）が不機嫌になるという結果を報告しています。

私が経験した2歳の女の子も、突発性発疹症の解熱後より、「抱っこして」と泣き続け、夜も突然怯えたように泣き始め、何時間も泣きやまなかったと来院しました。診察室に入る前より、動物が咆哮するような啼泣があり、母にしっかりと抱きついていました。けいれん・びくつき・嘔吐はなく、泣きやむと母との応答はとれており、会話は可能でした。診察上、頸部硬直もなく、他の神経所見にも異常はありませんでした。この患者さんには、甘麦大棗湯を1日2回半包ずつ処方しました。帰宅後、1回内服後はまだ泣いていましたが、2回目を内服した後、夜22時から翌朝8時まで一度も覚醒せずによく眠れたそうです。翌日、診察室内では泣いていましたが、待合室では泣かずに大人しくしており、前日に比べ症状の著明な改善を認めました。

さらにその数カ月後、風邪の発熱の後に再び彼女が受診しました。父から「熱は下がったが、また前と同じ症状が出たら困るのであの薬が欲しい」と言われ、前回と同様に甘麦大棗湯を処方し、事なきを得ました。

●症例——中学3年生の咳チック

また、全身けいれん以外に、チックや不随意運動でも、甘麦大棗湯は十分な効果があります。咳チックの症例をお示しします。症例は、中学3年生の女の子で、主訴は3カ月続く咳です。最初に近医でマイコプラズマといわれ抗生剤を、次に他の内科で喘息と言われロイコトリエン拮抗薬などを投与されましたが、咳は改善しませんでした。来院時の胸部レントゲン検査は異常なく、血液検査では、マイコプラズマ抗体×320とやや高めでしたが、CRPは陰性で、感染症の急性期とは思えませんでした。IgE抗体も、13.3IU/mLと低く、アレルギー性の気管支喘息も否定的でした。咳は表在性の軽い咳で、咽頭違和感があり、寝ると消失するということでした。診察上、弦脈で、肩こりが強い印象がありました。もともと運動部なので、痩せていましたが腹直筋はピンと張っていました。診断をはっきりさせるために、咳に効果がある内服薬はすべて中止し、甘麦大棗湯1包のみを寝る前に処方しました。2週間後に咳は著明に改善し、その後、柴胡剤を併用

して完治しました。

●症例——5歳女児の円形脱毛症

その他、5歳の女の子の円形脱毛症にも、甘麦大棗湯が有効でした。左側頭部に直径2cm程度の円形脱毛部位がありましたが、甘麦大棗湯1日1包を寝る前に内服したところ、内服2週間で脱毛部にうぶ毛が生え始め、内服2カ月で脱毛部がわからなくなり完治しました。この子の場合、夜怖い夢をみてよく眠れない、欠伸が出るという症状をヒントに甘麦大棗湯を選択しました。

●症例——過呼吸の高校生

甘麦大棗湯は、乳幼児だけでなく高校生でも効果があります。16歳の女子高校生は、部活後の過呼吸を主訴に来院しました。話を聞くと、今年まで地区大会で毎年無敗の女子バスケット部キャプテンに選ばれ、それ以来、部活後に発作的な呼吸困難と動悸があるという訴えでした。診察上、腹診で臍上悸著明、手掌発汗が多量でした。もちろん、胸部レントゲン写真・負荷心電図・甲状腺機能も異常ありません。臍上悸を目標に、桂枝加竜骨牡蛎湯2包（朝夕）と甘麦大棗湯1包（寝る前）を投与したところ、2週間で過呼吸の回数が減り、発作があったのは、学校行事の登山前後の2回のみで改善しました。その後、甘麦大棗湯を練習前に頓用で内服し調子がよいということでした。彼女のチームは、地区大会を勝ち抜きブロック大会へ進み、彼女は「無敗チームのキャプテン」という重責を無事に果たしました。

●「キツネ憑き」を治す甘麦大棗湯

甘麦大棗湯の出典は、『きんききょうりやく金匱要略』（婦人雑病篇）にあり、「甘麦大棗湯：婦人臍躁（ヒステリー）、しほいば喜悲傷して哭せんと欲し、かたち象神靈の作す所の如く、しばしば欠伸す」と書かれています。つまり、「女性がヒステリー発作を起こして泣き叫び、キツネや悪霊に取り憑かれたような姿形を示し、（夜眠らずに）よく欠伸を



図1 『腹証奇覧』にみる甘麦大棗湯証

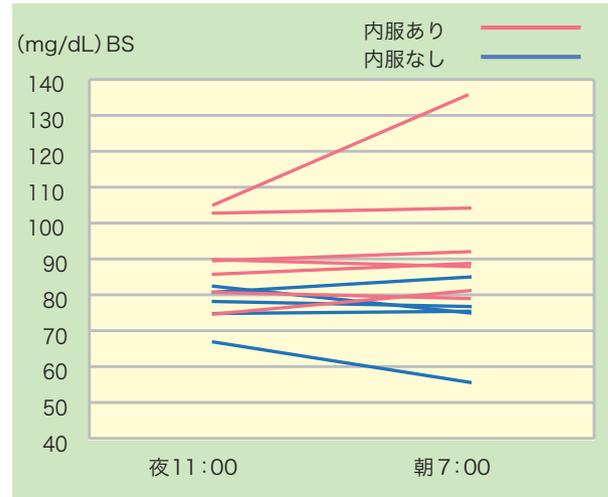


図2 甘麦大棗湯内服の有無による眠前・起床時の血糖値

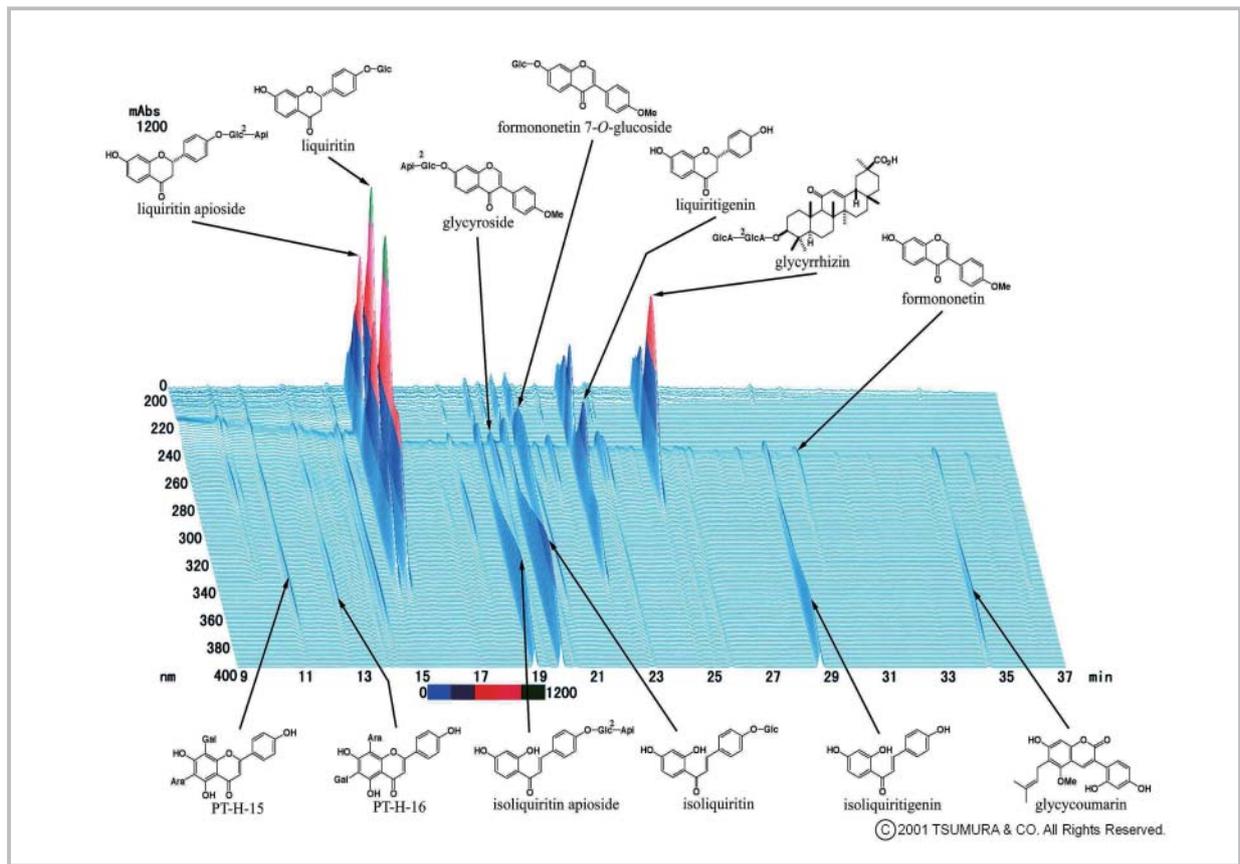


図3 甘麦大棗湯の液体クロマトグラフィー

する」といった意味かと思えます。「喜悲傷して」の部分には、「笑ったり泣いたりして」とも取れます。「象（かたち）神霊の作す所の如く」は、まさしくキツネ憑き、悪霊憑きの状態でしょう。平安時代、『源氏物語』の登場人物にはこうした「もののけの障り」の症状がしばしば登場します。実際、私の研修医時代に、ヒステリー発作のため四足歩行をし、会話ができなくなったまさに「キツネ憑き」とおぼしき小学生を担当したことがあります。

こうした症例には、昔の西洋ならエクソシスト、日本では高僧の御祈禱、医師の甘麦大棗湯が活用されたに違いありません。江戸時代の『^{ふくしほ まらん}腹証奇覽』という本には、甘麦大棗湯のページに図1のような挿絵が描かれています。お腹に引かれた縦線が腹皮拘急を示していると思われます。注目していただきたいのは、モデルの若い女性です。この本は、お腹だけでなく、その処方当てはまりそうなキャラクターの全体像を的確に描写しているところに価値があります。甘麦大棗湯の場合、乙姫様のような扇を手にした若い女性ということでしょう。

私が個人的に考える甘麦大棗湯の典型例は、①お嬢様、②甘いものが好き、③人間離れた泣き声・叫び声の特徴です。こうした女の子が、普段とは全く違う異常行動をとり、夜行性で眠らなくなったときに甘麦大棗湯の出番です。

●甘麦大棗湯はなぜ効くのか

さて、ここで甘麦大棗湯の作用機序について考えてみたいと思います。

本誌でもおなじみ静岡の中川良隆先生も「甘麦大棗湯は不思議な薬である。食品でもある甘草・小麦・大棗が“心”に語りかける」「例えばモーツァルトの音楽で気持ちが晴れる時、それを“魂にひびくものがあった”と表現するが、それと同類の機序ではなからうか」と述べており、それを共鳴理論と名づけています。

また、相見三郎先生は統合失調症に対する甘麦大棗湯の効果について「本方で幻想・幻聴が治るのは、精神神経系統以外の霊的領域の過敏状態が常態に復帰するものの如くである」と書かれています。ちょっと宗

教的な話になってきましたか？ 近代的なサイエンスの話題にしましょう。

沖縄の仁井田りち先生は、機能的低血糖における甘麦大棗湯の効果を検証されています。機能的低血糖は、お菓子や炭酸飲料水など糖分の摂りすぎによって引き起こされる血糖値の異常です。これによる自律神経失調症状を呈する6人のお子さんの午後11時と午前7時の血糖値を甘麦大棗湯内服の有無で調べたところ、「6人全例とも甘麦大棗湯眠前（午後9時）2包内服により、午後11時と次の日午前7時の血糖値が内服しなかった日の血糖値と比較して2～25mg/dL上昇した」という結果を示しています（図2）。そして「甘麦大棗湯は血糖をゆっくり上げ、血糖値保持作用がある」と結論づけています。

最後に、メーカーが行った甘麦大棗湯の液体クロマトグラフィーの結果をお示しします（図3）。いくつものピークで示されている物質の化学構造が、三環系抗うつ剤の基本骨格に似ていると思うのは私だけでしょうか。これらの物質の1つ1つが、体に、心にどのような影響を及ぼしているのか、今後少しずつ解明されていくことを願っています。



イラスト・池野一秀